

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和４年度高松市文化財保護審議会
開催日時	令和５年２月１４日（火） １４時～１６時
開催場所	浅野コミュニティセンター １階 第１会議室
議 題	議題 高松市の文化財指定について （伝香川町浅野出土石棺）
公開の区分	■ 公開 □ 一部公開 □ 非公開
上記理由	高松市が所有する物件の文化財指定にかかる審議であり、個人情報に含まれていないため。
出席委員	鹿谷委員、丹羽委員、守田委員、武重委員、山口委員、川崎委員、岡委員 計７人（３人欠席）
傍 聴 者	０人
担当課及び連絡先	文化財課 ８３９－２６６０

審議経過及び審議結果
会議を開会し、次の議題について審議し、下記の結果となった。 議題 高松市の文化財指定について 「伝香川町浅野出土石棺」を高松市の指定文化財とすることについて、事務局から実物の確認を行いながら説明し、審議に諮った。 結果、当審議会から、高松市の文化財として指定することが適当である、との答申がなされた。 （委員の意見） 石棺が用水の樋に再利用されていたことも価値付けに含まれないのか。 （事務局の回答） 一次的な価値付けにはならないが、文化財の来歴の説明として不可欠である。 （委員の意見） 石棺が用水の樋として使われていたのは大正５年からなのか。 （事務局の回答） それ以前から使われていた可能性はあるが、歴史資料として発見されたのが大正５年である。 （委員の意見） 用水の樋として実際に水も流していたのか。 （事務局の回答） 流していた。水を流すのに支障となる両小口と枕部分を削り落としたようである。 （委員の意見） 石棺を樋へ再利用するのは一般的なのか。 （事務局の回答） 樋への転用の類例として把握しているものは他県にも一例あるが、一般的かは不明である。石材の特性として、軟質で加工がしやすかったというところかもしれない。

（委員の意見）

石棺は身のみであるが、蓋はないのか。

（事務局の回答）

蓋は見つかっていない。もともと身のための石棺か、紛失したかは不明である。

（委員の意見）

今は石棺が野ざらしの状態だが、今後の保存管理はどう考えているのか。

（事務局の回答）

学校の敷地内にあるということで、学校側と協議をしている。学校側としては、教材の１つになること、昭和８年から校内にあるという歴史があり地域の方々にも大切にされてきていることから、動かしたくないという意見がある。郷土資料を展示している教室があるが、スペース的にそこで保管をするのは厳しい。市指定文化財になったらそれを機に保存の在り方を他の市内の石棺とともに検討していきたい。

（委員の意見）

市内にある他の３基の石棺（石船塚古墳・三谷石舟古墳・石船石棺）と比較して特徴はあるのか。

（事務局の回答）

特徴は他の３基とよく似ている。

（委員の意見）

石棺の調査は進んでいるのか。

（事務局の回答）

測定は実施済みであり、今は石棺が劣化する原因を精査中である。

報告 新規指定・登録文化財について

本市にかかる国及び県の新規指定・登録文化財について報告を行った。

以上